



四北小だより

四条北小教育目標：自ら考え行動する、心豊かで、たくましい子どもの育成

第11号 発行日R7.12.10

発行者 校長 山根 達也

大東市立四条北小学校

TEL876-6301 FAX 876-0420

学校だよりはHPでもご覧いただけます

子どもたちのチャレンジがたくさん見られた2学期でした。

大舞台にチャレンジ！それまでの過程から大切な経験になりました。

○『第20回大東市小中学生弁論大会』(11月14日)では6年生弁論の部で、久保 桜香さんが市長賞を受賞。5年の坂元 結奈さんが1分間スピーチの部で立派にスピーチを行い、作文の部では4年の立石 結梨さんの作文が本校代表作として展示されました。



○音楽会に続いての『第43回大東市立小学校連合音楽会』(11月26日)では、6年生のみんなが千人を超える観客の前で『スパークル』と『ウイリアム・テル序曲よりスイス軍の行進』の2曲を発表。



○「第10回大東市図書館を使った調べる学習コンクール」では、4年 佐川 晴彦さんが市議会議長賞を、6年 山本 しのはさんが図書館特別賞を、そして2年の阪上 翔海さんが優良賞をいただきました。

努力をたたえます！

普段の教室でも子どもたちの“つながり、みがき合う”授業が行われています。



普段の教室では子どもたちの小さなチャレンジや努力の積み重ねが続いている。少しずつ難しくなっていく学習内容にチャレンジし、かけ算九九や、漢字を憶える毎日の学習をコツコツ続ける子どもたち。新しくなったタブレットを使って絵を描いたり、作品を先生にオンラインで提出するなどの新しいことにチャレンジする姿も見られます。そして、難しい学習内容



や、物語の登場人物の気持ちを友だちと一緒に想像し、自分だけでは分からない発見や深い学びを体験し、『はやく、かんたんに、正確に』を合言葉にしながら“つながりながらお互いにみがき合う”姿が校内のあちらこちらで見られています。

「学校教育活動アンケート」へのご協力をお願いします。【12月12日(金)配信予定】

今年度も保護者の皆様から学校教育活動についてご意見ご感想をいただく『学校教育活動へのアンケート』を実施いたします。ご家庭から見える学校の取り組みについて、ご忌憚なくご意見をいただければと考えています。

昨年度、利便性を考慮し、オンラインでの回答にてお願いしましたが、告知不足のせいか回収率が低かったため、今年度この学校だよりをはじめとしたプリントでも告知させていただきます。オンラインでのご回答がご負担は少ないと思いますので継続いたします。多くの保護者のみなさんのご意見ご感想を学校教育活動に反映させるべくご協力をお願いいたします。

学期末懇談 よろしくお願ひします。

16日(火)から22日(月)まで、期末懇談を行います。15分間という短い時間ではありますが、お子さまの2学期の様子(生活面・学習面)などのお話を共有させていただきます。1学期同様、子どもたちのがんばりの様子を伝えさせていただき、そのがんばりをお家でも褒めていただき、更なるがんばりを引き出したいと思っています。

子どもたちにとって、モチベーションを高め、『自ら調べる』『やってみる』という自主性・主体性・チャレンジ精神を育むことが大切です。そしてそれを継続させる『根気』や、家庭や社会など周りと折り合いをつける『調整力』が『非認知能力』として、あらためて注目されているところです。

今回の懇談会がお子さまのより良い家庭生活・学校生活につながることを願っています。

子どもとスマホ(SNS)の関係

再掲載

スマートフォン(SNS)と子どもとの関係を見直す動きがオーストラリアをはじめ世界で加速しています。大人でもなかなか良い関係をつくるのに苦労している『スマートフォン』『さまざまなSNS』。そんな「魔法の扉」とも「ゲーム機」ともとれる便利な端末との『正しいつき合い方』を真剣に考える必要性が日々高まっているようです。

『歩きスマホで危ない瞬間を体験した』、高い依存性により『時間を無駄に過ごしてしまった』などの経験をお持ちの大人も多い事でしょう。特にそれが子どもの場合は、『睡眠時間を削る:睡眠キャンセル』や『学力低下』をはじめ『視力・集中力・記憶力の低下』という発達を阻害する恐ろしい面が次々と立証され明らかになっています。



家族との会話など、コミュニケーションを奪うものとしてもやり玉に挙げられてしまうものを、当の開発者は『自分の子どもには与えなかった』のだそうです。そして、現在そういったICT業界で働く関係者も、家庭での子どもの使用には多くの制限を設けているのだそうです。

もし、ご家庭でもそんな課題を感じられていたら、冬休みの機会にお子まとしっかり話し合ってみてはいかがでしょうか?

※家庭学習の時間の急激な減少等、こういったことをお知らせする必要性が昨年よりも高まっているように思い、再掲載させていただきました。

